

# ★ある集いその足あと

## 「渦」

大河 双魚



ある日水面に生れた「渦」は、始めは小さくゆるやかな円を描いていたが、刻がたつにつれて大きさと力を増し、ついには周辺の流れをも巻き込んで底知れぬ巨大なエネルギーとなった。渦はたえず動いていて、一カ所に留まってはいない。上流から流れついた木の葉はいつの間にか引き込まれやがて水中深く誘いこまれていった。「渦」という俳句集団が神戸に生まれたのは昭和三十五年十月だから、今秋はちょうど十年目にあたる。そしていつの間にか百人近い集団にまで成長した。むろん人の数で真価がはかれるものではなく、この集団もそればかりをか

ならずしも望んでいない。しかし今や単なる一地方誌としてではなく、ユニークな存在を全俳壇で注目されるに至った。進歩的にみえてあながい保守性の強い神戸、前衛的な俳句にとっては不毛の地といっても過言でないこの地では、この集団の成長は平安な歲月ではなく、幾多の迂余曲折を重ねた。それはそのまま主宰者赤尾兜子の歴史ともいえる。さきには「渦」の前身「坂」および毎日新聞兵庫俳壇の選者であった若き日新鮮なアイデアアとして発刊した「一枚の手帖」(「坂」の前身)を忘れることは出来ない。新聞記者という繁忙な業務のかたわら、情熱を傾け、大きな野望を持って、独自の評論と俳句を創造し、一方周辺の後輩の指導に力を注いだ。そのなかで生れた珠玉は処女句集「蛇」と題して出版され、大きな反響を呼び、現代俳句協会賞受賞の榮譽をにない、今や最も可能性を期待される俳句作家として、また現代俳句の歴史の一頁を飾るエリートとして大きな責任を負うにいたった。それとともに「渦」の集団の主だった作家たちの存在も注目されている。船川渉、和田悟朗、青江涼江、三宅三穂など多士濟々である。ことに「渦」には輝々たる女流の多いことでも有名であるが、これは主宰者の魅力が

物語るものであろう。「渦」にしろ、「坂」にしろ、皆の総意で選ばれ名づけられたもので、運営はごく民主的である。主宰者は周囲の人々に自分の作風をおしつけようとはしない。勿論確固たる論理はあったが、それぞれの個性を尊重し育成した。

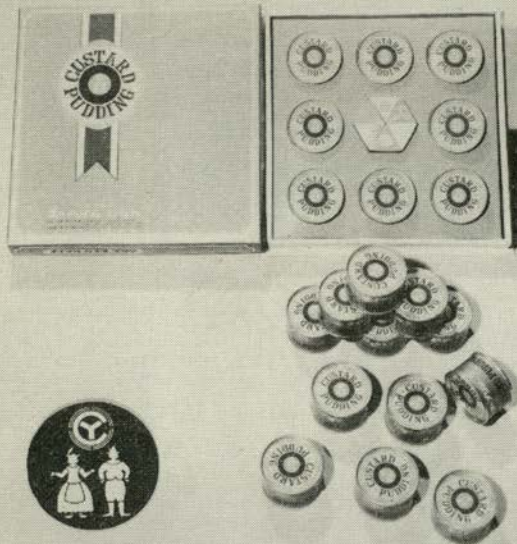
その情熱のあまり時に雷が落ちることもあったが、叱声を愛のムチとして受けた。はじめ兜子師と周囲の間にかなりの距離のあることを他から批判された。いままもあまりちぢまってはいいないが、それぞれ立派に個性を開花させ、「渦」をより魅力あるものにしていく。

神戸を発祥の地として育った「渦」も神戸っ子としてさらに生い育って行くであろう。来年早々には十周年の記念大会を催すべく準備を進めている。

最後に主宰、赤尾兜子と主だった人々の作品を紹介しよう。

音楽漂う岸浸しゆく蛇の軌  
空井戸あり纏帯の鶏水色に  
硝子器の白魚水は過ぎゆけり  
どぶろくの露粉まみれのネオン坂 船川 渉  
全身で蛇死にゆくや尼寺冷え 和田 悟朗  
薄霧の旅一群落の顔似通う 大河 双魚  
風強ては火の音はしる曼珠沙華 青江 涼江  
干魚をひさき海蝕のくらがりへ帰る 三宅 三穂  
浅はかに酔い痴れ鉄に寝む一夜 小泉八重子  
母星子星眠みあり流灯あげ汐に 寺沢 光子  
梨割つて母子遠さがる夜飛行 柳山 和子  
指ひらき流す月光祭の後 小賀野 恵  
浪花火の真下首の櫻を挿く 寺田もとお  
笑う野仏片欠け廻子風を呼び 寺田もとお

# お中元に クールなおくりもの メイプルカスタープリン



北 欧 の 銘 菓

ユーハイム・コンフェクト

本 社 ・ 工 場 神 戸 市 葦 倉 区 熊 内 町 1 ( 市 立 美 南 館 東 隣 ) TEL 22-1164・5665  
 三 宮 セ ン タ ー 店 神 戸 市 三 宮 セ ン タ ー 街 ( 洋 菓 子 ・ 喫 茶 ・ レ ス ト ラ ン ) TEL 33-2421・4314  
 生 田 店 神 戸 市 三 宮 生 田 筋 ( 随 上 喫 茶 室 ) TEL 33-0156・7343  
 さ ん ち が 店 神 戸 市 三 宮 地 下 街 ス イ ー ツ タ ウ ン TEL 39-3558



世界の人々に

愛される

*Kitamura Pearls*

北 村 真 珠 店

元町通2丁目60 TEL 33-0072

涼しさを呼ぶ



# ヒロタの シュアイスワーム



## 洋菓子のヒロタ

元町店・三宮店・さんちか店・そごう店

おんがら屋



きものと細貨

# おんがら屋

神戸

西店/三宮センター街・電話 33-8836 (代)

東店/三宮センター街・電話 33-0629

三宮店/さんちかタウン・電話 39-4303

東京

銀座店/銀座並木通・電話573-5298 (代)

渋谷店/東急本店・電話462-3409 (直)

(5階和装名家街)

日本橋店/東日本橋店・電話211-0511 (代)

(4階和装名家街)

(内線294)

# 北野町哀愁

林田重五郎  
△随筆家 写真も▽



北野町の窓

「神戸は、どこを歩くとよいか。」

こんな質問を受けるたびに、即座に、

「北野町それも、明日とはいわず、今日すぐに……」

と返事をするにしている。このごろの北野町界限の変わり方を見ていると、一日がおろそかに出来ないような気持になるからである。

北野町が急変し始めたのは約十年前であったと思う。明治時代に建った異人館が、木造の宿命で耐用年限が来たのが大きな原因であろう。同時に都心に近い、絶好の見晴しを持つ場所とあっては目をつけられるのが当然である。

二、三百戸もあった異人館が次から次へとコンクリート、鉄筋鉄骨にかわってゆく。床しい板塀がブロック塀になってゆく。神戸市の建築史家、坂本勝比古さんの、大きな本「異人館」が出版される。特に価値のあるハンター邸ほか一軒が、県と市の費用で移築保存される。異人館を惜しむ気持は、少しはなぐさめられたように見える。

しかし、その間にも時の流れは北野町をおそうビルの料亭が建ち、ホテルが次から次へと生まれ

る。異人館のなかにとどころビルがあつたのが、いまでは逆にビルの中に異人館を探さねばならぬ有様になった。坂本さんに聞いたところではもう三、四十戸しか残っていないのではないかとのことである。

北野町といえば、洋画家小松益喜さんである。東京の学校へ、郷里の高知から往復する途中、こ

こに魅せられて、そのまま神戸に住み、異人館を描き始めてから四十年になる。転交への感傷もひとしおだろう。

「まだまだ残っていますよ。もう十年は描けませよ」。

昔は北野神社の門前から東を見たところがよく画題になっていたが、このごろは北野町と山本通の間の道を、トア・ロードから五十軒東へ入った門さんの宅の前へ、よく通うそうである。

なるほど、よく保存された異人館である。レンガ塀が、この道のはげしい交通のために、少し傾いているのが、いかにも傷々しいが、柱といい、下見板といい、三角屋根根といい、新しいペンキに色どられて、ピカピカしている。

異人館のなかには、ほんの数軒だが、持主の愛惜心からである、門さんの家のように、十分手入れのしてあるところがある。数十年昔の、自動車を手入れして、愛用している跡味と似ている。たいへん高尚で、北野町の愛好者には、有難い極みだが、維持費は巨額になることであらう。

北野町、山本通、その間の、この門さんの通り、東西の交通はいまあまりにもはげしく、正

北野町の塀





北野町の露路

カベを支えていた木のさんが丸出しになっているのもあるはげ落ちてレンガがむき出しになった門。ツタがからんで風にゆれている。ペンキの消えた開き窓、百年近い風雪を語っている。溝が必ずわきについていてチヨロチヨロ流れている。

一軒、一軒、すべては落日の美しさである。もうしばらくすれば、消し去られるであろう、その瞬前の美しさである。カメラを担いで、露路から露路へ、神戸を訪れるたのしみ、ここに極まるといってもよい。

外人も少なくなったそうだ。しかるべき人は北野町の俗化を避けて、塩屋や阪神間に居を移したのが多いそうだ。それでもフロシキをさげて買物にゆく白人の老婆にも会えるし、小路の角の水道栓で、ネグリジエのまま口をすすいでいる白いハダの娘さんに出会ってハツとしたりする。北野町はやはり北野町である。

北野町に住んで、トア・ロードを歩いて出勤したいというのが、四十年昔の夢だったが、この望みが果されなかつたかわりに、いま北野町は、たそがれのような美しさで酔わせてくれる。

みなさん、北野町を惜しまししょう。

直なところ、異人館に見とれていては危険である。

この三つの通りを、南北に、あるいは斜めに横切っている露地こそ、いま歩くのに最もふさわしい。

幅一戸あるかなし、すべてセメントで固めてある。古い異人館、下見板もはがれ落ちたあとに、

# 牡丹島

山本大慈 へ絵 も 〴

牡丹の花に関心のある画家ならご存知のはず、  
島根県八束郡大根島のことです。

松江から船で一時間ばかりの海にボツンと  
浮かんでいる人口六、七千位の島です。

この島に牡丹を写生にゆききっかけとなったの  
は、日展の浜田観さんの紹介をいただいたからで  
す。

島民の温かい人柄もうれしく、以来十余年の間  
に七、八回を、この島で花の季節を過ごしました  
いたるところ牡丹の花に埋まった家々の前庭、あ  
るいは数百数千本をまとめた花壇などまことに見  
事という他ありません。

ただしこれは十幾年以前のことです。最近では以前ほ  
どではありません。古い大きなものは他に移した  
と聞いていますし、苗木の輸出も盛んなようです  
島へ着いた幾日かはあまりの豪華さ、艶麗さに圧  
倒されてどれから写生していいかと惑う始末でし  
た。

まず見た通り正確に描きながらただ形だけを写  
すことに満足できなく、なんとかその心が描けな  
いかと懸命に努めはするのですがどうもうまくゆ

かないまま、予定の日がいつの間にか来て花も散  
り、写生はまた来年のこととあきらめて、さて、  
段取りとなると今迄心に描いていたものの何分の  
一も描けず、十年余りの島通いとなった次第。そ  
して、未だにあの無限に深い美しさを表現出来ず  
年を重ねています。

花を見ていつも新鮮な感じを受け、飽きること  
のないのは、自然の深い根から咲かされているか  
ら味わいつくせないものがあるので、見れば見る  
ほど美しく思うのでしょうか。

このことは牡丹の花に限ったことではなくあら  
ゆるものに対していえることで、自然のつくった  
ものはいっつ見ても新鮮で見飽きることがありませ  
ん。いい作品についても同じことを自分は感じま  
す。名作はその作者を通じて深い人間性があらわれ  
ているので、その人間性に味わいつくせないもの  
があるから、何度見ても見るたびに新鮮なものを  
感じます。

それでこそほんとうの芸術だといえましょう。  
だから写生をする時、できるだけ忠実に写生する  
のはいちばん深いところから来た自然の力を写す  
ことで、自分の生命に与えられた最も深いものを  
生かすことになるので、その両方が生かされた時  
はじめていい作品が出来るものと思います。そん  
なことを考えながらの牡丹島通いでした。

さて、その島の学校の先生で、油絵を描く池田  
さんから一人の可愛い少年を写生に同行させて  
やってくれたので、それからの毎日、少年と  
ともに写生が続いたわけですが、実に利巧な少年  
で絵もうまく、その上歌が上手、写生に疲れると  
よく歌ってもらったものです。柏木彰君といいま



りしているので一度会いたいと思いつながら、売れっ子になっているあきちゃんとおつてはなかなかいい機会がありません。

この少年、本名柏木彰、白木みのる君なのです。この頃はなかなか貫録も出来、どんな役でも達者にこなしているのは皆さんご存知のこと。

さて、二、三年前久方ぶりで牡丹島へ渡るため松江から船に乗ったところ、案内嬢が大根島を指さし、あの島が有名な白木みのるさんの生れた島ですと、ほこらかに紹介しているのをほほえましく聞きました。あきちゃんも偉くなったものです。根性のあるみのる君のこと、いつまでも健在であれと大慶に思っております。

さて、自分とはあれば、いまだに牡丹の心を描けず作画の半分以上は牡丹と取りくんでいながらなかなか得心のいくものが出来ずにいますが、意欲大いに盛ん、仕事のきびしさを今更ながら自覚しつつ精進をつづけています。

往年の神戸酒徒番付で東の正横綱を張ったことのあるばくも、この頃では砂かぶりにも出られず情けなき次第。酒、煙草を遠ざけて五年、これという道楽とてないまま絵三昧の日々です。それが自分に与えられた使命と、この頃は至極おとなしく暮らしています。

その内、実物の牡丹の花がばくの描いた牡丹の花を見てびっくりするような、いい作品の出来る時もあるうかと夢みつつ。

おわりに朝倉斯道先生よりの賀状の一句拝借  
酒のめぬ男もありて寝正月  
まったくしみじみとしたことでした。

した。そして、身体は普通人として育たず小学一、二年位のままなのです。そのうち、家の事情なども察しがつき、これはひとつ日劇の舞台にでも／＼と思つて、旧友丸尾長頭君に手紙で紹介したのですが、ちょうどそのころ空飛小助なる小人を売出し中で話にならずあきらめていました。いつかテレビを見ましたら懐かしい顔と声家内にはあきちゃんじゃないかといつて確かめたあの時の懐しさを今でもわすれません。よかつたなあ、家内と話合つたものです。写生をともしていたころ何かと厄介をかけた

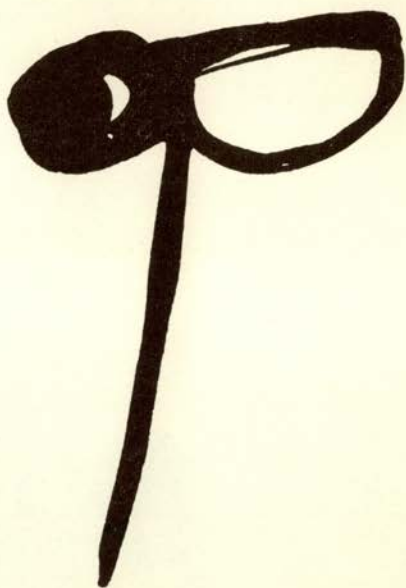


# 神戸 心象 雑景

野口武彦

え・津高和一

神戸は美しい町である。この町に住むだれもが  
 そういうし、訪問者の多くも必ずしも外交辞令で  
 なくそれを褒める。さしあたりは半居住者、半滞  
 在者といった恰好のわたしもそう思う一人であ  
 る。しかし、いったい美しい町であるとはどうい  
 うことなのか。清潔な街路といえは市役所の公告  
 みたいだし、風光明媚とか港町の異国情緒とかい  
 ったら観光ポスターの宣伝文句になってしまふ。  
 そうしたばらばらの要素だけを取り立てていうな  
 ら、他の日本の都会にだってそれらが備わってい  
 ないことはないのである。おそらく、町の美しさ  
 というものはいろいろな要素が一つのまとまりの  
 ある全体をかたちづくところにしか生れ出ない  
 のだろう。



あ

市街の美は、美人の美しさがそうであるように  
 半ばは定準があり、半ばは主観的なものであるだ  
 から、町を愛することは一人の女に惚れることに  
 似ている。われわれが決して瞳の輝きだけとか、  
 鼻の恰好のよさや手の美しさだけとかで女を愛す  
 ることはなく、それはあくまでも全体としての  
 人格によってであるように、町もまた一つの  
*physionomie* の輪郭をとこのえてわれわれの前  
 に立ち現われる。そこで旅行者は行きずりの女と  
 なじむように、生活者はあたかも町を妻帯したと  
 いったぐあいに、それぞれの惚れ方に応じた町の  
 美しさを所有するのである。  
 わたし個人に関していえば、神戸は不思議にわ  
 たしの幻想をそそってやまない街である。いまだ

き幻想などという、生存競争も交通戦争もさかんな活気ある都会をつかまえて何を悠長な、とお叱りを蒙むるかも知れない。しかし、わたしはたとえば絵画を鑑賞するときに必要とされるのと同じ性質の距離を、生活の空間に対して確保しているタイプの人間である。わたしは決してただの無責任な旅行者として神戸の市街と人々の生活とを鑑賞しているわけではない。いまわたしは、或る必要な距離をとってこの町を眺めたとき、その山が海に迫り、市街地が東西に細長く延びた地形のうち何か根源的な人間の夢想を探りあてることができるよう予感しているだけのことである。

どこからでもよい。再度山でも摩耶山でも、あるいはもしお望みならどこか山の手のホテルの窓からでも、われわれの眺望のもとにひろがるのは人間の生活だけではなく自然の地形だけでもない両者の積のうちに現われ出る一種いわば人文地理的な風景である。六甲山系の緑の樹林と淡黄色の花崗岩の山肌。同系統の色調にほどよく統一された町並みの起伏。そしてピンクの煙を吐く工場群の彼方の港湾。大小の船があるいは憩い、あるいは行き交う岸壁の向うにはいつも海が光っている。これがわれわれのつねに見馴れた神戸の眺めであり、夜は夜で無数の燈火とイリユミネーションが昼以上に人間の営みを強調し、それをクロウズアップする。

そうした日常の光景のなかにわたしが幻想を触発されるのは、いまいった人文地理的な風景をわたしがさらに抽象化して、神戸の町をもっとも単純な三つの元素に還元してしまっているときである。わたしはそれらを光と水と勾配と呼んでおこ

う。わたし流に命名すれば、それはさしずめ形而上の地理とでもいうべき構図である。「光」はいつも海彼からこの勾配の急な土地にさしかけて来ひとはその「光」の源に向って船を漕ぎ出し、あるいはそこから船を迎え入れる水はその光源となるかにつらなり、人間を海彼への夢想にいざなう。そしてまたこの町の人々は、より多く自分にさしかけて来る「光」を浴び、また、はるか眼下で営まれる「光」と水との交渉を眺めて楽しむかのように勾配のあちこちに居をかまえ、また日々忙しげに勾配を上下する。そこでは夢が生活にまじり、また生活が夢を喰って、人間がそれをもつて自分の生を維持する幻想に毎日の心の糧を与えているのである。

神戸の町でいちばん美しい場所をといったら、各人各様いろいろな答えがかえって来るだろう。しかし、わたしにより関心があるのは、いわば神戸の任意の風景の内部のどこにもある風景である。この町での人々の生活に内在する地形。また逆に、地形に刻印された生活。「光」と「水」と「勾配」は、たとえば神戸の市街のどの地点の横断面をとってみても必ずやそこに浮かび出ることの町の原型である。日本の都会で坂道のない町はないけれども、神戸の坂道は東京の坂道とはちがっているし、また長崎や函館や横浜のそれともおそろく同じではない。わたしがときどきこの町の散歩を楽しみながら、ふと夢想にさそわれるのは、自分がいま坂道をたどって歩いていることが自分にとってたしかに意味があるといった奇妙に根源的な性質の幻覚なのである。

「本格派のおしゃれなあなたが好き」



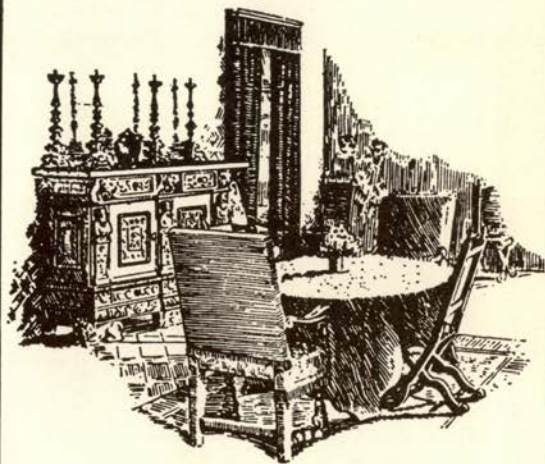
O-SHIBATA



柴田音吉洋服店

神戸・元町4丁目南 神戸 34-0693  
大阪・高麗橋2丁目 大阪 231-2106

家具・室内装飾・工芸品



永田良介商店

神戸市生田区三宮町三丁目・大丸前・電話神戸 (39) 3737 (代表)

東京店・東急百貨店 日本橋店内1階 03(211)0511  
本店(渋谷)7階03(462)3180

# 須磨の昼網

波は舷側をたたいている、潮は鰯に流れる、舟床が熱く、藻屑が震えるように舟足につれて固まってゆく。海面は照り返されて、湧きおこる碧が、鈍色と燻んだ藍色にとって替わり、盛りあがる波の頂上だけが、鮮烈な白色の響きをみせて眼を鋭く射る。それを避けることで睡魔とたたかう。舟はロープを深く曳いている。船先に巻いたロープは、舟縁を這いで鰯に到り、海面を鋭角に切り、波を退けている。陽はまぶしいほどに真上にある。全身が白熱の焦点に位置したようになり、陽炎が海に飛散する。陰をつくと山稜が霧をかきわけた。あれが鉢伏山。エンジンの揺れが舟床に通じ、ポンポンと単調な

音が煙突から逃げる。

網を入れてどれぐらの時間が経ったろう。臉が重くなった。舟は潮に逆らい、走っているが山は動かない。かれこれ一時間は経った。砂礫の混じる垂水浜を出て七時間。親爺さんは舵にもたれて海を見ている。勝ちゃん はトランシーバーを手に寝転んで奴鳴っている。そして同行の高田編集部員は寝入っている。

あれが娘婿の舟ですワ、と指さす舟影は、海面の光の帯に浮んでいる。淡いピンクのかげりが鰯からもれている。波が静かに押さえられ霧が四方に拡がる。

最近では商売がしにくくなりました。工場が多くなっ



底曳き網は重く潮を含んでいる

すぐガスがでよる。東風が吹くともならん。とこぼす信川一男さんは、六人の子持ちだが長男は会社勤め。若い人は身をかばうのですな、でも、うちは次男の勝ちゃんが乗ってくれて助かっとうりです。今年六一才。体が痛んでマッサージをしてまで舟に乗っているので、息子が乗るなという、そうさ。でも人を雇うと会計が大変やさかい、と淋しげな眼を網に向ける。

舟は突然大きく揺れ、船先に食  
い込んだロープが唸りをあげて鱧  
をきしらせる。舟は傾き海面がい  
びつに見える。親爺さんの合図で  
再び大きく潮に逆らうと、勝ちゃ  
んが、すばやくロープを機関室か  
ら通じているロクロ型の巻揚機に  
かけ唸りを入れる。巻き揚げたロ  
ープは再び輪となって積まれる。  
勝ちゃんの手つきが、波の揺れの  
リズムに合い実に鮮かだ。天木が  
海面に姿をあらわすと支柱の滑車  
で引き上げる。網が見えてきた。  
錘があがってきた。舟が急傾斜す  
ると、途端に袋網が舟床に投げだされた。緊張してのぞ  
き込む。白い水のにごりを網に含んで、陽は流れる潮と  
共に、藻屑や泥や、鉄線を明るく照らす。ひとでがはね  
た。トラハゼが踊っている。カレイはひたひたと白い腹  
を見せた。淡いベージュ色の光沢をもった蛸がうねうね  
と足を伸びず。ペラが泥の中から美しい原色を誇ってい  
る。三〇センチものアブラメが網にはさまれてじつとし  
ている。あなごは途方もなく逃げまわる。針イカはジュ  
ウシユウと怒っている。実際エビはどこにいたのかわか  
らない。勝ちゃんが手際よく魚を区分するが、思ったほ  
どの収獲がない。はねたエビの皮を剥いで食べていると  
勝ちゃんが寄ってきた。



黎明は漁船を孤独にする

トランシーバーを耳に漁港とガアガア連絡  
を取っている。錘が切れた。網の縫いをは  
じめる。霧の奥に、西須磨から明石までの  
団地群が白い避暑地のように迫っている。  
海岸が近づいてくる。西に舟は向っている  
のだ。

垂水浜を出て八時間、陽は中空に昇った  
垂水漁港は海神社からの砂浜が、福田川尻  
でされる所にある。平磯灯台が東南に大阪  
湾を背景に見え、淡路島が、明石海峡を鮮  
かに見透して浮んでいる。

垂水漁港は東西に長くのびた防波堤をも  
ちそこは玄人筋に言わせると釣れない釣場  
であるが、素人眼にはなんとなく釣れそう

な感じがしてそれはただ無闇に釣人がいるので、何か釣  
れるからこそこんなにいるのやろ、と釣人特有の錯覚に  
誘われ、竿を出すすゝ矢張り釣れない。こんな具合にまだ  
初夏というのに驚くほどの太公望が競う漁港となったが  
実際は魚が薄く、たまたま釣られた魚は全くお気の毒。

福田川は漁港ビルに終わっている。漁港修築記念碑のあ  
る白い建物は、神戸市西部漁業協同組合（西部漁協組）  
のビルだ。

西神戸は、東から駒ヶ林、東須磨、須磨浦、塩屋、東  
垂水、舞子の七組合が漁業権を握っていたが、漁場がだ  
んだん狭くなり、その反対に西神戸沖に淡路、大阪方面  
の舟がその狭い漁場に侵入する。それに、水産資源の保  
護、養殖が必要な時代に入ると一組合の資金力ではどう  
にもならない。そこで昭和三四年十月、西部七組合が合  
体して西部漁協組をつくった。そして昭和四一年十二月  
に、この漁港ビルが完成。組合員は三五〇人。舟を一隻  
もって年収は約一二〇万円というが、これは海苔の  
養殖からの収入を六〇%含んでいる。

西部漁協組の施設は、須磨にフィッシング・センター  
と、垂水漁港内に冷蔵庫、いかなごの加工場、海苔人工

なかなかおもしろいもんやろ、最初は誰でもそうやねん  
今は海底電線の切れ端がひっかかってあかんかってん、  
と船槽をのぞきながら慰めてくれた。

あの赤いにはさわりなや、と注意した魚はおこぜだ  
った。この魚はせびれに鋭い毒を持っているが、美味だ  
須磨沖五キロ。機帆船の沈船があるのデジグザグに走  
らんと、と舵を力強く握るが、あたりは霧で目印しにな  
るものがない。親爺さんが嘆息をつく傍で、勝ちゃんが



潮流と風を見る眼は刺しい

月は夜陰に孤高を貪っている。砂礫は冷たく、微風が漁港の人声を伝える。浜は眠って、舟影が立ちただかっているが、黒い軒並の灯が背後で動く。

午前二時半。月は依然として淡路の島を真下に、雲を染め、海をゆらゆらと照らしている。漁火が走る。

波打ち際に突然姿をあらわした婦人に声をかけると、ああ、あんた方か、まあ早う来なさったな、と気の毒がってくれた。そこへ漁

採苗場の諸施設を有する。そして舟着き場の階段上にある魚市場。これがある意味で垂水の漁師の収入構成をあらわしている。

海苔人工採苗場の水槽に沈められた牡蠣の殻は、怪しげな黄色に染まって何枚も吊るされている。青みがかった水に時折ゆれる一連の殻に、水苔のような海苔の種がある。この採苗は、ここ数年の海苔の供給不足による価格騰貴も関係しているが、これが昭和四二年度沿岸漁業改善対策事業であることをみれば、この海苔養殖への推移が察せられる。

いかなごが佃煮で喜ばれる時代は過ぎようとしておりかつて砂浜に並べられたかぐわしい雑魚は、今や肥料だ西日で海が染まる頃、駒ヶ林を出た舟は、遠く淡路の島影に消えるまで夜を徹して漁をし、朝焼けに向って帰路につく頃、すでに豊漁で舷側が沈んでいる。これが、いかなご漁なのだ。一夜を托しての労働によるいかなごは今や全くハマチの餌になる。しかし、かつて獲れすぎたいかなごを、価格低落を防ぐため海に投棄したことを想えば、漁港の加工場でハマチの餌に加工する方が、漁師にとっては収益が安定しているのである。

港の方から来た漁師さんが、雑誌社の方かえ、港の方に來てるか思うてみてきたとこや、まあ船先の方にでもあがれや、もう舟を出ささいになど話しかけて舟に梯子をかけてくれる。さては、これが信川一男はん、そしてあれが息子の勝ちちゃんやな、と度胸を据えて船先に乗り込み尻をおちつけると、途端に舟が動きだした。舟はウインチで砂浜に巻揚げてあるが、海に入れる時は女子衆の仕事。舟を左右に揺ると、あつという間に木杵を滑って海の中。女子衆が舟をかついでるとこは写真になると言われて高田編集部員、尻の落ちつかぬ舟の上から数枚はシャッターを切ったが、それを掲載できないのはカメラのせいではなく残念ながら月明りのため。

舟は平磯灯台を目指す。船先が大きく海に沈む。フェリーが胴を白く光らせて波をきる。勝ちちゃんが機関室に潜りこんでエンジンの調整をしている。

第一網。灯台の手前、漁港の灯が真近くみえるところで、エイッと掛け声。天木が投げられ底曳き網が沈み錘りが渦をたて鱈に走る。ロープが潮を含んで冷たく黝先から海に沈む。網は潮の流れをとらえて放さない。暗い海へ、輪になって東へ東へ。底曳き網は二つの袋網である。十



垂水の昼市は符牒で始まる

魚屋がくる。トラックがくる。漁港に十杯の舟が並ぶ頃駒ケ林の九時からの朝市を終え、筑島の中央魚市場での商いを終えた鮮魚商が、文字通りの鮮魚を求めて集まってくる。水揚げがはじまる。蛸の豊漁だ。あなごが逃げまどう。西部漁協組の競り人が市に立つ。箱に入れられた蛸、いか、カレイが次々と台に並べられる。十五人の魚屋の若衆が指で巧みに符牒をとり値段を決める。

強烈な競り声に合わせて運ばれてくる魚が次々と買われて行く。蛸の値が下がる。あなごが籠ごと

値がつけられ、記入されたテープ

が漁師の手に渡る。よう、買ったきよったな、と白い歯を見せてにっと笑う。服は潮で濡れ、腕は潮焼けしている。暇になった若い衆が、ジャンケンで硬貨をやりとりしている。その声が賑やかだ。漁港は釣人で溢れてきた。昼市は続いている。自分の値で買い取った蛸を積んで、早々と自転車でひきあげるもの、依然としてあなごばかり買うもの、トラハゼ、ベラの小魚に身を乗り出すもの、いずれも西神戸の鮮魚商だ。

我々の舟は昼前に垂水港に向った。電線の山に網をとられて天木が折れたのだ。残念やったな、昼すぎまでやったらおもしろかったのに。でも、またおいでやと勝ちゃんに修繕のため網をあげた舟を砂浜に廻しながら声を掛けてくれた。淋しいのだ。淋しいのにちがいない。一万円という天木の損よりも、ただ一隻、定刻前に港に帰ってくる漁師の淋しさがあった。網を繕う親爺さんは、ただポツンと、山が見えてたらなあ、といって、ひたすら網に向った。昼市はまだ続いている。魚はほとんどん水揚げされている。

メールほどの天木が海底に沈み、袋網が潮にのってくる魚を大きく待ちうけている。

夜が白んで、雲が西に流れると、鉢伏山の心地よい傾斜が西須磨への連なりを支えているが、東須磨以東は、あかね色の雲の切れ目からずっと下に霧の中に眠っている。漁港と明石の灯、それに平磯灯台が舟の目印しだ。

第二網が入った。ほら、と親爺さんが指さす空に、橙色と黄色の閃光が、雲を黄金色に染めあげ、太陽から舟縁にきらきらと続く光の帯は、勝ちゃんの顔をたくましく映している。海神丸は陽に軸を向けた。複雑な色合いで流れる霧の中から、鉢伏山の頂上の灯が光を放った。

これが須磨の昼網なのだ。垂水を午前三時に出た舟は朝焼けの洗礼をうけて走る。網を入れて一時間、潮に返って網を入れて一時間。そして午後一時、漁港の魚市場の屋根が焼け、もの憂げな大気が波をじっとりと押さえ、熱気が海面から砂浜にこもる頃、須磨沖の舟が次々と漁港目指して帰ってくる。それはただか三ト半の舟の群れだが、暑さに眠る港を十分に活気づける。



より高い精度を  
実現した  
高振動自動巻腕時計  
ロビンソンウルトラクロン



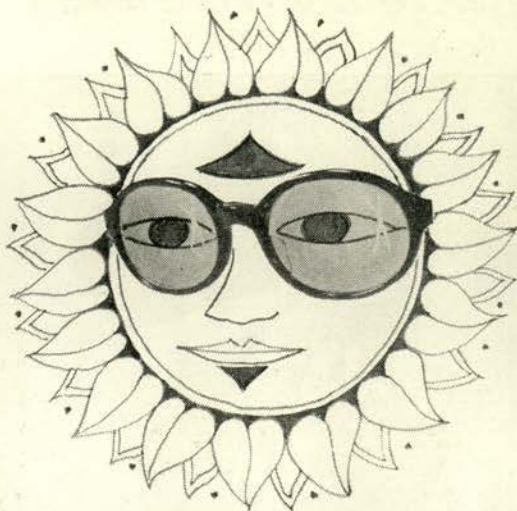
特約店



美甲時計店

元町店・元町三丁目 TEL33-1798  
三宮店・さんちかファンシー・タウン TEL33-8798

太陽がいっぱい!



'69 ロイヤル

ルワイアン

グラス

おしゃれな舶来サングラスも  
豊富に取り揃えております。



神戸眼鏡院

元町店・元町3丁目 ☎③1212代表  
三宮店・さんちかタウン ☎③1874-5



ブリムの影に  
涼しさと女らしさが漂う  
マキシンの帽子



マキシンの帽子のおもてめは  
全国有名百貨店でどうぞ!

婦人帽子

**マキシ**

神戸・トアロード 東京・銀座3-2  
TEL (078) -6711-3 TEL (03) 535-5041



ブラウス

セーター

スーツ ランジェリー ワンピース



**スギヤ**

トア・ロード市電大丸電停前  
TEL (33) 3436  
六甲店・阪急六甲駅  
TEL (87) 2731(呼)

## 経済ポケット ジャーナル



### ★横浜港の追いあげ急

#### 貿易輸出額

神戸港における貿易額は一昨年、貿易総額（輸出額十輸入額）で横浜港に抜かれて以来、額は順調に伸びているものの、ライバル横浜港に対する神戸港の旗色はさえず、輸出の王座さえおびやかされている。

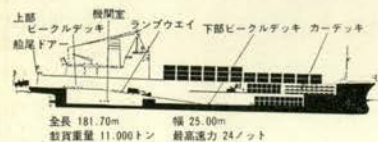
今までの輸出は神戸、輸入は横浜というイメージがあり、昭和四十二年上半期に二十六年ぶりに貿易総額の王座をゆずったのも、神戸ではゼロにひとしい石油輸入の急増にともなうものだ。これは重機器の輸出、石油の輸入という横浜の強味にみるように、京浜阪神両工業地帯の特質差のあらわれといえよう。

近年は地方産業都市の擡頭で地方港が急速に伸びているため、神戸、横浜両港の全国でのシェアは年々減少しつつある。とはいえ、国際港都としての地位はゆるがず、神戸港はポーターアイランド、ライバル横浜港

の本牧（ほんもく）埠頭など両港とも意欲にみちている。今後の興味として、ポーターアイランドのいかによつては神戸港がふたたび王座を奪回する可能性もある。

### ★わが国初のロールオン・ロールオフ式コンテナ船

川崎重工において、五月十七日、オーストラリアン・ナショナル、ライン向けロールオン・ロールオフ式コンテナ船「オーストラリア・エンタープライズ」の



全長 181.70m 幅 25.00m  
総重量 11,000トン 最高速度 24ノット

### ★KOBE オフィスレディ★



河野道子さん (23)

ドッドウェル・アンド・CO, LTD  
定期船部勤務

勤務している室に、女性には彼女ひとり、マスの存在だ。親も男の子は、おんな親切な親切で優し高校時代から読書は外近大イブずお茶、お華、修業の方にもお忙しい。関西外国語短大

進水式がゴートンオーストラリア首相夫人の命名と支綱切断によっておこなわれた。

同船は八×八×二〇のコンテナ五六〇個、小型乗用車一〇台の積載能力をもち、上下二層のビークルデッキへは船尾を開口して岸壁からフォーク、トレーラーによる搬入が可能になっており、通常型コンテナ船と同様の岸壁クレーンによる荷役と平行して貨物を処理できるので、荷役能率が高い。また上部ビークルデッキを船首から船尾まで全通させており、この特殊な構造のためにエンジンケーシングをできるだけ小さくする必要があり、主機はディーゼルエンジン三基で、世界でもめずらしい三基一軸の推進装置を採用している。

同船は日本とオーストラリア間共同配船計画の一環として建造された第一船です。すでに川崎汽船向け同型第

二船の建造が同造船所です。すめられている。

### ★出足好調

#### 阪神コンテナ輸送

大日通運（本社神戸）と森本倉庫（同）の折半出資による合弁会社、阪神コンテナ輸送株式会社は五月十五日から営業を開始したが、海運コスト明けと月末集中など好条件が揃い予想通り順調なスタートをきった。

同社は大手船会社を直接参加させずに、航運と倉庫会社を親会社とする点で業界でも注目をあつめた。業種を海上コンテナ輸送に限定し、しかも、業務範囲は神戸市中心で、神戸港発着の貨物に限るという制約をうけてはいるが、時代の脚光を浴びる業種だけに、今後の見通しは明るい。同社末包営業課長も「問題はまだまだ山積しており、決して楽観はしていませんが、将来によせる期待は大きなものがあります」と語っていた。

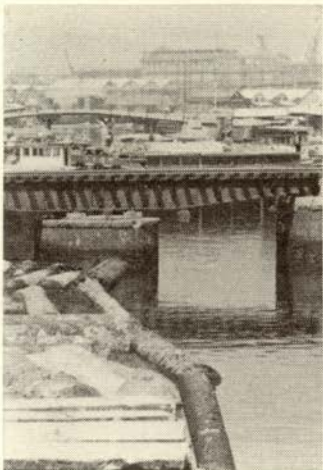
神戸のアーバンデザイン(28)  
臨海既成市街地の  
西軸再開発 その2

水谷顕介+チーム・UR

★兵庫運河造成は、いわば明治のポートアイランド建設とでもいったものでしょう。その水路交通の活動は、沿岸に、水路を利用する皆さんの工場を集積させてきました。

しかし、いまや、水路を利用する船の交通は少なくなり、また工場自体の機能も、水ぎわに立地している条件を必要としなくなっただけのものが多いようです。お互いの機能の関連が、きわめて薄くなり、むしろお互いのあるべき条件を殺しているともいえるでしょう。

水路交通の技術革新は最近めざましいものです。この際、その技術革新の新しいシステムと、水路の再開発を組合せてみたらどうでしょうか。水路自体に再び活発なバイジラインシステムを導入し、拠点施設として水路―鉄道・道路と一体化した総合流通ターミナルを配置します。鉄道引込線は、従来から存在している施設を再活用します。こうすることによって、流通ターミナルが立地することによって、周囲の倉庫施設の機能もぐっと高度化するでしょう。兵庫運河―新長田軸を、ポートアイランド―三宮軸と対応して西の力強い都市軸を構成させるための、基礎づくりとしてのプランニングです。

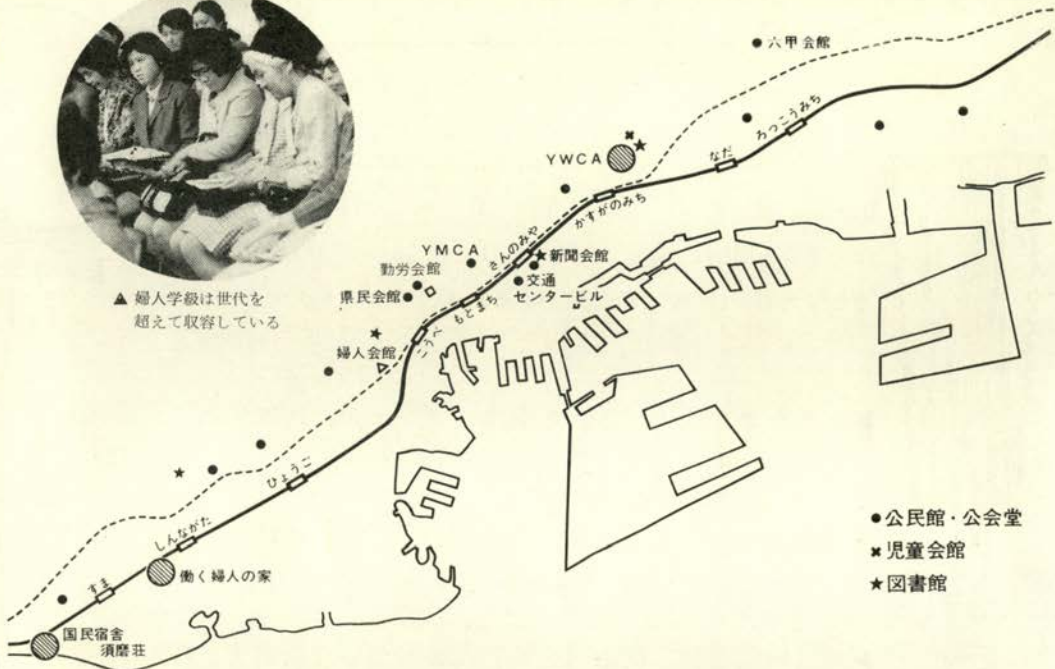


再開発が望まれる兵庫運河。  
現在は貯木場であるが、有効な鉄道引込線も存在している  
運河近くにできた御崎園サッカー  
技場

写真右左  
写真中



▲ 婦人学級は世代を  
超えて取容している



- 公民館・公会堂
- ★ 児童会館
- ★ 図書館

## コミュニティの環境と施設 その1 神戸のモダンリビング⑳

水谷頼介十チーム・UR

★我々の暮している周囲には、様々なかたちで豊かな環境づくりのための計画が進められています。その一つとしてコミュニティ(近隣社会)の出会いの場としての公民館、文化会館などの施設があります。日常の生活圏の中に用意されているこれらの施設が、ただその場所にあるかないかというだけの認識で見すごされてしまっているのでは残念です。そして、これらの施設の中には、型通りの内容で旧態依然というところがあるのも事実です。

限られた一部の人々だけに関心をもたれ、そして利用されるようなあり方は、本来のコミュニティの施設の役割を果していない、ということになります。

近隣社会の社交の場として、盛んにこのような施設が利用されている外国とちがって、地区全体の人々が交歓するという機会がますます少なくなっていく傾向にある日本では、このような施設の内容と企画がその地区の人々の生活のイメージを拓げていくような力を持つようになることが望まれます。最近、神戸市内では、各々の地区の特徴を生かした住民の要望に密着したものが計画実施されてきました。

次回から三つほどの例をとりあげて、その機能の可能性を検討してみようと思います。

(高月昭子)

“家具のプラモデル化”

暮らし方や遊び方など何かにつけてよそからおしつけられ勝ちな最近のこと、家族そろってトンカチゴリゴリやる日曜大工は、心を自由に開放すると同時に創作の喜びにひたれるひと時でありましょう。デモ日曜大工にはおのずと限度があるはず、そこでイリフネがあなたのレパートリー拡張のお手伝いをさせていただこうというわけ。

- ▶ あなたのデザインされた家具をプラモデル式にすべて部品化してご用意いたします。(大略の加工は完了)
- ▶ ご来社またはお電話打合せ後約一週間でお届けいたします。そして日曜日には組立完成です。
- ▶ 釘、附属金物、接着剤、塗料などもついています、特殊工具は不要です。
- ▶ クロウトだけが知っている組立のツボ、コツもお教えしましょう。
- ▶ この係は工務課おさだ、または、やまもとです。

お電話でどうぞ 078-85-3192

